

## ITU-T WTSA-12 関連会合 開催結果

### ITU-T 電気通信標準化アドバイザーグループ (TSAG) 会合結果概要 2

#### 概要

【日 時】 2012年7月2日(月)～4日(水)

【場 所】ジュネーブ(スイス)

【議 題】 ITU-Tの作業プログラムについて

【参加国】54カ国から148人が出席。我が国からは21人(総務省、NTT、KDDI、三菱電機、日立、NEC、富士通、OKI、TTC、日本ITU協会、NICTの11組織)。

【概 要】標準化と教育に関するグループが新たに設置されたほか、SG再編、フォーカスグループに関する規定等、WTSA-12(世界電気通信標準化総会)に向けた議論が行われた。

#### 主な議論結果

- インドの標準化フォーラム(GISFI)が、標準化教育に関するフォーカスグループを新たに設置することを提案。ITU-Tとアカデミアが標準化教育について連携する必要性は合意されたものの、フォーカスグループが最適とは言えないとの意見もあり、議論の結果、TSB局長のアドホックグループを設立することが合意された。なお、TSBよりアカデミアメンバーのWTSAへのオブザーバ参加が提案され、理事会に検討を依頼することとなった(理事会で検討、合意された)。
- 勧告A.4(フォーラム等との連携)、勧告A.6(SDOとの連携)について、フランステレコムより、将来は統合も含めて検討すべきとの意見があり、ノートされた。
- 勧告A.5(ITU-T勧告における他機関の文書の参照)について、IEEEから、前回TSAG会合へのドイツ提案(他機関の文書をITU-T勧告にする際に文言の変更を容認)について、規格の重複や不整合を生じる可能性があり、著作権やIPRの面でも問題が生じかねないとの指摘があり、米国、ISOCが支持した。WTSA-12に向けて引き続き検討することとなった。
- 勧告A.7(フォーカスグループの設置・運営)について、日本及び中国がフォーカスグループの活動にITU予算を利用可能とすることを提案し、韓国が支持した一方、ドイツは自己ファイナンスの原則を維持すべき旨を主張(フランス、スイス、イタリアが支持)。3つのオプションについて議論が行われたが結論は得られず、WTSA-12において議論される予定。

### 主な議論結果

- Aシリーズ勧告Supplement3 (IETFとITU-Tの連携ガイドライン)について、コレスポンデンスグループで検討された修正案を合意。
- ITU-T決議18 (ITU-RとITU-Tの調整)について、イタリアから、ITU-TとITU-Rが合同で技術検討を行うためのInter-sector Joint Rapporteur Group (IRG) の設立規程と手順を本決議のAnnex C及びITU-R決議6のAnnex 4に追記することが提案された (本件はITU-Rにおいても、RAGにコレスポンデンスグループを設立し、次回RA-15でITU-R決議6を改定予定)。議論の結果、本決議の修正案が作成され、WTSA-12に提出されることとなった。
- 決議35 (議長・副議長の任命)について、ロシアが、セクターメンバーが候補者を推薦する際に主管庁と事前に調整する旨のテキスト、及び副議長数ガイドラインの追加を提案 (ITU-R決議15と同様)。セクターメンバーと主管庁との事前調整について、イラン等が反対を表明した一方、UAE、ロシアからはRAで議論されて合意された妥協案であるとの指摘があった。また、SG議長グループから、議長・副議長が一期目を終えて二期目に立候補する際に、「3回以上の連続欠席」、あるいは「50%以上の欠席」の場合は二期目は任命しないとの新ルールの導入が提案され、議論の結果、「50%以上の欠席」を採用することが合意された。
- SCV (Standardization Committee for Vocabulary) について、SCV議長 (Alajouanine氏 (フランス)) より、役割を終えたとして、WTSA-12において決議67を削除しSCVを解散することが提案されたが、ロシアが存続を主張。WTSA-12で議論が行われる見通し。
- SG再編については、日本、中国、韓国が現行の10SGを維持すべきとの提案を行い、米国、ロシア、アフリカが支持した一方、フランスから、欧州は別途再編案を検討中でありWTSA-12へ提出予定との発言があった。SG再編の原則について、日本及び作業プログラムのコレスポンデンスグループ議長から提案が行われ、WTSA-12に向けて引き続き検討することとなった。また、SG9とSG16、SG11とSG13のコロケーションに関して、フランステレコムから継続すべきとの意見があった一方、SG9、13、16議長からはSG運営に柔軟性を持たせるべきとの意見があり、これらのSGのコロケーションは「normally」の範囲で行うことが合意された。

### 主な議論結果

- PP-10決議178 (インターネット支援のための技術的観点) への対応については、コレスポンデンスグループ議長のRushton氏 (英) から、コレスポンデンスグループでの検討の結果、JCAを設置することが適当との提案があり、合意された。本件は、TSB局長のレポートとしてWTSA-12に提出される予定。
- クラウド関連の研究課題について、フランスから、SG11で合意されたクラウドの相互接続性試験に関する新研究課題とSG13の研究課題との重複について懸念が示され、両SG議長及び関係者で引き続き調整を行うこととなった。また、中国から、クラウドに関するSG間連携を強化すべきとの提案があり、TSAG議長から、関連SG (SG2,5,11,12,13,17) が連携・調整して検討を進めるよう要請があった。
- 電気通信ネットワーク製品のITU-T勧告への適合性評価等に関して、TSBが外部委託により作成した事業計画が報告されたが、事業計画のさらなる検討を求めるフランス、カナダ等と、その早急な実施を求めるイラン、エジプト等の意見が対立。リフレクタを設置することが合意され、引き続きリフレクタを活用して意見交換を行うことになった。適合性・相互接続試験に関して、日本はSG17の試験課題Q 13 (ODPを除く) とQ14のSG11への移管を、中国はJCA-CITのリードSGのSG17からSG11への移管を提案したが、ロシアはこれらについてはWTSA-12で議論した上で、WTSA後のTSAGで検討することを提案。Q14について、英国、イランはSG17に留めるべきと主張、JCA-CITのリードSGの移管の是非とともに、継続検討とされた。また、NEC,OKIからは、日本で開催されるHATS相互接続イベント (ITU後援) の紹介が行われ、ノートされた。
- 災害通信に関するフォーカスグループについて、ロシアが親グループをSG17に変更することを提案したが、フォーカスグループ議長の荒木氏 (NTT) が検討領域が非常に広いため、現時点では親グループはTSAGとしたい旨を表明、親グループはTSAGとすることが確認された。また、関連SGとしてSG11、16を追加したToRの修正案が承認された。
- イランより、WTSA決議の数は必要最小限とすべきとの意見があった (全権決議を直接適用する等)。また、既存決議のエディトリアルな修正に関しては、TSBで修正案を検討の上、提案することとなった。

### (今後のスケジュール)

今回の会合は、2013年6月にジュネーブにて開催される予定。

**概要**

2012年7月30日(月)～8月1日(水)、タイ(バンコク)において、ASTAP総会(第20回)が開催された。全体として41組織から130人が出席。我が国からは33人(総務省、TTC、ARIB、NTT、KDDI、NEC、NICT、OKI、日本ALU、日本ITU協会、日立、日立国際電気、富士通、三菱電機、ラックの15組織)が出席。

**主な議論結果 (WTSA-12関連)**

APT: Asia Pacific Telecommunity(アジア・太平洋電気通信共同体)

- ITU-T Issue Groupにおいて、WTSA-12へのAPT共同提案等について議論が行われ、本会合に続いて開催されたAPT WTSA-12準備会合にリエゾン文書として検討結果を入力。
- ITU-T SG3、SG5 WP3、SG11、SG15、SG16について、各SGの議長・副議長より活動状況を紹介(SG15議長より、APTメンバーに対し、WTSA-12に提出した勧告案2件の承認への支持を要請)。
- 日本から、勧告A.7(フォーカスグループの設置・運営)の改定に関するAPT共同提案のドラフトを紹介。障がい者と途上国の参加の両方を考慮すべき、オプションCをそのような方向で修正すべき、日本提案にあるオプションD(ファイナンス関連項目の全削除)はAPT共同提案には含めない方がよい等の意見が出たほか、欧州とのハーモナイズを図る方向でオプションCのテキストの修正案が議論された。
- KDDIから、ITUにおける電子的会議の遠隔参加に関するアンケートの集計結果に基づき、電子的会議システムの課題等が提案され、次回TSAG会合に、APT Common Viewとして入力することが合意された。
- MPLS-TPに関する勧告案G.8113.1について、日中韓共同提案により、WTSA-12における勧告案承認への支持が求められ、ノートされた。



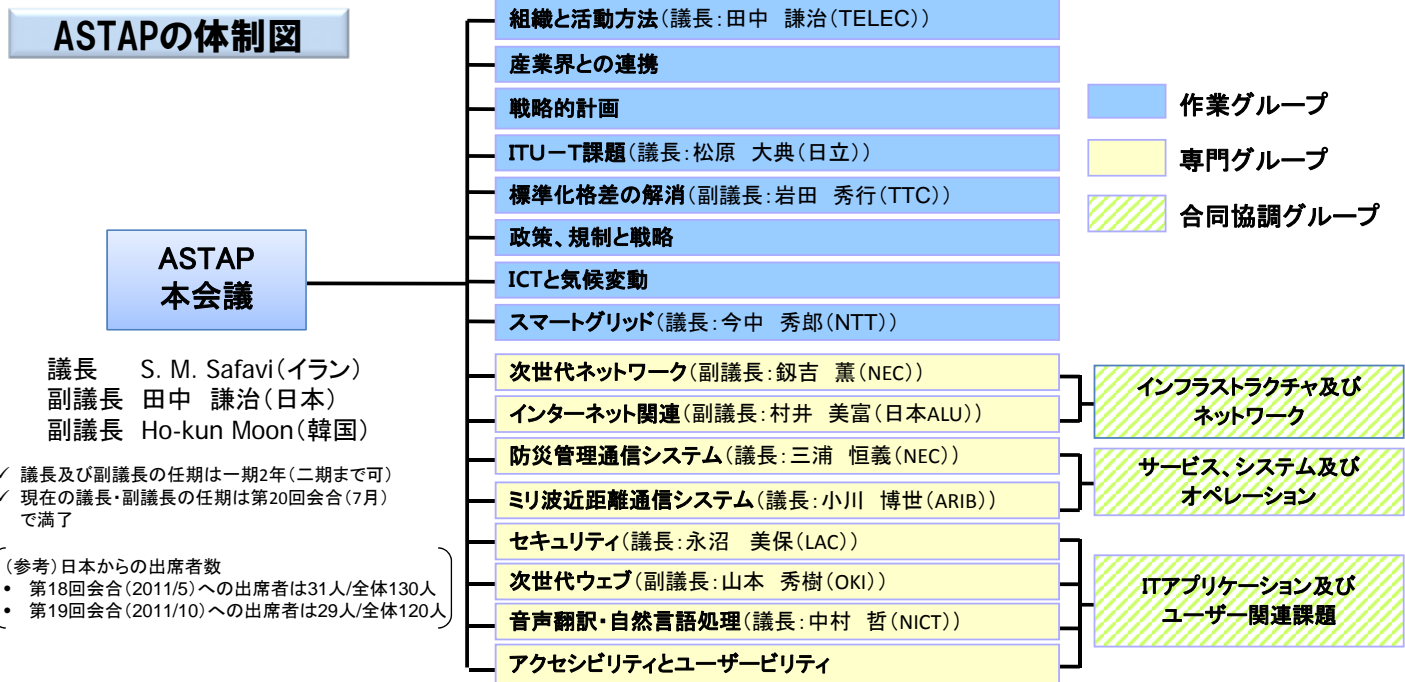
**主な議論結果 (続き)**

- 日本から、SG構成及び原則に関するAPT共同提案のドラフトが紹介され、ノートされた。
- 韓国から、決議73(ICTと気候変動)の改定に関するAPT共同提案のドラフトが紹介され、ノートされた。
- 日本から、7月のTSAG会合の議論を受けて、SG9と16、SG11と13のコロケーション開催は「normally」の範囲で行う方向で決議2(SGの責任と役割)を改定するAPT共同提案のドラフトが紹介された(コロケーション開催が必須でなくなるにより、ジュネーブ以外での会合開催等も可能となり、コスト増も見込まれていない)。提案を支持する旨のコメントがあり、ノートされた。
- TTC前田氏より、来年4月に日本・京都で開催予定のITUのイベント、カレイドスコープカンファレンス2013の紹介が行われた。

**(今後のスケジュール)**

2013年については、ASTAP総会を年に2回開催する方向でAPT管理委員会へ提案し、必要な予算確保を目指すことを合意。年2回開催が承認された場合、次回ASTAP総会(第21回)は、2013年3～4月頃に開催予定(場所未定)。

- アジア・太平洋地域の電気通信分野の標準化活動を強化し、地域として国際標準の策定に貢献することを目的として、1997年11月、APTに設立。
- 1998年2月、ASTAP総会(第1回)がバンコクにおいて開催され、これまでに19回のASTAP総会を開催。
- 現在、活動計画や新規課題への取組みなど検討する8つの作業グループと技術課題毎に標準化協力を審議する8つの専門グループ、さらに、専門グループ間の協調を行う3つの合同協調グループを設置し、APT地域内の標準化協力を推進。



## WTSA-12 APT準備会合(第4回)の結果概要

### 概要

2012年8月2日(水)～5日(土)、タイ(バンコク)において、WTSA-12 APT準備会合(第4回)が開催された(副議長: 深堀国際情報分析官)。全体として40組織から118人が出席。我が国からは18人(総務省、TTC、ARIB、NTT、KDDI、NEC、NICT、日本ALU、日本ITU協会、日立、富士通、三菱電機、ラックの12組織)が出席。

### 主な議論結果

WTSA: World Telecommunication Standardization Assembly(世界電気通信標準化総会)  
 APT: Asia Pacific Telecommunity(アジア・太平洋電気通信共同体)  
 TSAG: Telecommunication Standardization Advisory Group(電気通信標準化アドバイザーグループ)

- ITU-T勧告 A.7(フォーカスグループの設置・運営)について、前回会合(2012年3月)に引き続き、フォーカスグループ活動にITU予算を利用可能とすべき等の改定案を検討、WTSA-12へのAPT共同提案を策定した。
- ITU-T決議35(SG及びTSAG議長・副議長の任命及び最大任期)について、オーストラリアが2012年7月TSAG会合で議論された継続時の条件等をAPTから入力することを提案、前回会合で日本が提案した副議長数ガイドラインをベースに改定案を検討、APT共同提案を策定した。
- 次研究会期のSG構成に関しては、前回会合及び2012年7月TSAG会合での議論を踏まえ、日本提案(ITU-Tの主導的役割、新課題での他機関との柔軟な連携等)に基づき、SG再編の原則を示すとともに、現行の10SGの維持を提案するAPT共同提案を策定した。また、各SGの活動を拡充する方向で、ITU-T決議2(SGの責任と所掌)を改定するAPT共同提案を策定した。
- PP-10決議178(インターネットの支援のための電気通信網の技術的観点)に関しては、7月のTSAG会合においてJCAを設置する方向で合意されたため、APT共同提案は策定しないこととなった。





主な議論結果（続き）

- 日中韓共同提案に基づき、WTSA-12においてMPLS-TP関連勧告の承認を求めるAPT共同提案を策定した。
- 中国提案に基づき、SDN(Software Defined Network)の検討を加速する新決議案に関するAPT共同提案を策定した。
- ITU-T決議73(ICTと気候変動)について、ICTと気候変動に関する意見や情報交換を行うための電子的フォーラムの設置等を可能とする改定案を検討、WTSA-12へのAPT共同提案を策定した。
- ITU-T勧告E.161(電話のキーにおける文字の取り扱いに関する勧告)については、電話のキー配置のガイドラインについて、アルファベットだけではなく非アルファベットにも拡張していくことを確認、WTSA-12へのAPT共同提案を策定した。
- TSB局長の今研究会期レポート及びWTSA-08のアクションプランの進捗レポートのレビューを行い、今後の標準化格差是正、Digital divide等の議論に資するための課題を整理したレポートをAPTからのリエゾンとしてTSBへ送付することとなった。
- ITU-Tの次研究会期SG議長・副議長候補について、各国から今後の推薦予定等を紹介(日本からは、今後SG11,12,13,15の副議長を推薦予定である旨を周知)。またWTSA-12役職者について現時点での見通しが紹介された。

(今後のスケジュール)

今後、今会合で作成されたAPT共同提案(計10件)がAPT加盟国へ照会される予定。

なお、WTSA-12 APT準備会合は今会合がWTSA-12の前の最終会合であるが、WTSA-12後の決議のフォローアップ等のため引き続き開催予定(APT管理委員会にその旨を提案予定)。

(参考) WTSA-12 APT準備会合の概要

- 本年11月に開催される世界電気通信標準化総会2012(WTSA-12)において議論が想定される議題について、アジア・太平洋地域の意見の調整等を行うことが目的。
- ITU-Tの今研究会期(2009-2012)においては、2011年5月にWTSA-12 APT準備会合(第1回)がバンコクにおいて開催され、これまでに3回のWTSA-12 APT準備会合が開催されたところ。
- WTSA-12 APT準備会合においては、4つのコレスポネンスグループ(CG)が設置され、WTSA-12に向けた検討事項について議論が行われているところ。最終的には、WTSA-12へ入力するためのAPT加盟国の共同提案が取りまとめられる予定。

WTSA-12 APT準備会合の体制図

	コレスポネンスグループ	検討事項	日本からの役職者
<b>WTSA-12 APT準備会合 本会議</b> 議長 S. M. Safavi(イラン) 副議長 深堀 道子(日本) 副議長 Kishik Park(韓国) 副議長 Xu Weiling(中国)	CG1	ITU-Tの作業方法	ラポータ: 津川 清一(KDDI)
	CG2	標準化の研究課題、研究委員会の体制	ラポータ: 後藤 良則(NTT)
	CG3	途上国に関連する課題	—
	CG4	規制・政策、標準化シンポジウム、その他	アシスタントラポータ: マツ ロペス(NEC)

(参考)日本からの出席者数  
 ・ 第2回会合(2011/5)への出席者は17人/全体104人  
 ・ 第3回会合(2011/10)への出席者は16人/全体93人